

第58回市町村消防長・消防団長会議の開催

8月10日(水)午後、第58回市町村消防長・消防団長会議が、市原市の市原市民会館大ホールで、県下市町村から消防(局)長と消防団長等約150名の出席により開催されました。

会議冒頭、来賓(生稲県防災危機管理部長、下重日本消防協会業務部長、室田県消防課長、小平消防学校長)並びに主催者(石橋消防協会長、白井副会長、芝岸副会長、安達副会長、吉野副会長、池田副会長)の紹介がされ、引き続き、今年の消防長・消防団長会議以降、新しく就任された消防(局)長・消防団長26名の紹介が行われました。その後、芝岸消防協会副会長の開会の言葉、石橋千葉県消防協会長の主催者挨拶、千葉県知事(代理 生稲防災危機管理部長)及び日本消防協会長(代理 下重業務部長)の来賓祝辞がなされました。



石橋会長



生稲防災危機管理部長



下重日本消防協会業務部長

議事は、石橋協会長が議長となり進行され、最初に、室田消防課長による防災危機管理部各課の説明が行われ、その後、小平消防学校長による消防学校の説明に続き、下重日本消防協会業務部長から消防団員確保対策等の説明がなされ、最後に、鈴木専務理事から千葉県消防協会の事業概要等の説明が行われ、議事は無事終了しました。





室田消防課長



小平消防学校長



鈴木専務理事

休憩後には、四街道市危機管理監の澤島博氏による「東日本大震災での千葉県浦安市の被害と教訓をいまに生かす」と題する講演が行われました。澤島先生は、1977年に防衛大学校を卒業され、自衛隊に36年4ヶ月間奉職された後、2010年に浦安市危機管理監となられ5年8ヶ月間勤務し、その内5年間は東日本大震災の対応の日々を送られました。その後2017年に四街道市長の要請を受け、四街道市危機管理監となり、現在6年目を迎えております。



澤島博講師

講演では、防災には過去の災害の学び直しが大切であることから、浦安市において危機管理監として経験された東日本大震災震災直後の応急対応から復旧・復興に至る一連の自助・共助・公助の活動状況、更に当時の課題や教訓等について映像を交えて紹介がされました。

まとめとして、自然災害の現実を踏まえると、いつか自分たちの「まち」も被災地となる。

防災とは、人とまちに対する愛情であり、平時から「防災」をまちの「文化」として定着させ、災害時に自助・共助・公助などが連携し、消防も市町村を越えて協力し合い、大切な人とまちを守り、また被害を最小限に食い止めたいと話されました。

最後に、地球温暖化は豪雨災害や土砂災害を頻発・激甚化させ、更に南関東（首都）直下地震や南海トラフ巨大地震などによる大震災が切迫しており、風水害、震災、更に富士山噴火等が重なる複合災害も懸念される。しかしながら自治体職員や住民等の多くは災害に対する認識がまだ低く、市町村の公助の要である皆様には、自治体職員や住民等に防災への備えの必要性を説き、また防災・消火の訓練でのアドバイスをさらに推進して頂き、備えることで救える命が多くあるとの解説がされました。

講演後、安達消防協会副会長の閉会の言葉で会議は終了しました。

